

(別紙1)

事業報告書

<p>事業名</p>	<p>食支援体制整備事業</p>
<p>趣旨・目的</p>	<p>NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」と湯沢教授（立教大社会福祉学）らの調査によると、新型コロナウイルス感染拡大の長期化が、ひとり親世帯の家計や健康面をより困難な状況に追い込み、育ち盛りの小学生の体重が減る傾向などが表れており、「子どもたちの生活、成長、学びに人々の想像を超える多大な影響がある」など、県内を含め子どもたちは非常に困難な状況にある。このため、長期化するコロナ禍により困難な状況にある家庭の子どもに対して、食品等を配布するとともに、相談支援を行うことで状況の改善を図る。</p> <p>平成26年度に法人化した当団体への食品提供は、昨年度約15トンとなり、提供元は、企業・個人あわせて約150先、提供先は約130先と増加してきているが、入出庫管理はエクセルで行っている。</p> <p>当団体では、フードバンクの認知が進んできたことや、新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、支援のニーズが高まっていることもあり、今年度、全国食支援活動協力会からの補助金により冷凍冷蔵庫を購入して、これまで扱ってこなかった冷凍冷蔵品や生鮮品を扱うとともに、現在1か所の拠点県内に複数設置する予定である。</p> <p>これに伴い、提供元・提供先や取扱い食品量が大幅に増加することが予想されるが、現行管理方式では入出庫処理が追い付かず、事務局の負担も増大することから、他県フードバンクが活用して事務処理の軽減に奏功している入出庫システムを導入し、今後の取扱量や提供先の増加に円滑に対応するとともに、支援実績を蓄積することで、活動の将来的な方向性を検討する一助にしたいと考えている。</p>
<p>事業実施の地域及び対象者</p>	<p>県内の困難な状況にある家庭の子ども</p>
<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や家庭にある、まだ食べられるが廃棄される食品等を困難な状況にある家庭の子どもに提供する体制を整える。 ・支援団体が開催する相談機会に参加するひとり親家庭など困難な状況にある家庭の子どもに対して、提供された食品等を配布する。

事業実施期日	<p>入在庫管理システムを導入して企業等から提供された食品等を効率的に食品配布会で配布するとともに相談会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3会場（内訳参照） ・延べ20日間 ・延べ742世帯 <p><主な相談内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事について （職場環境、ストレス、人間関係、雇用条件、仕事内容の変化など） ・子育てについて （進学、進級、友達関係、食事を食べない、不登校傾向、発達、イライラ、しつけ、習い事など） ・経済的な課題について ・親族や友人との人間関係 （同居の家族とのトラブルやストレス、介護、友達付き合いなど） ・夫との関係について （離婚の手続き、調停、面会交流など） ・行政の支援などの情報提供 ・イライラ、ストレス、心的不調
事業実施の果効	<p>長期化するコロナ禍により困難な状況にある家庭の子どもの生活の困難さが軽減されるとともに、食品ロス削減を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINEの利用登録が520超え、活動の認知が広がった。 ・毎月1回程度顔を合わす中でスタッフと利用者、利用者同士の顔の見える関係ができておいる。 ・活動に参加することがきっかけで地域の子ども食堂や支援の場に繋がるケースが増えている。 ・活動のボランティアに参加することをきっかけに前向きになったり、自分の得意を發揮したりするなどの変化が見られる。 ・子どもの参加が多く、子どもにとって家庭、学校以外の地域の居場所となっている。
備考	

< 内訳 >

月日	区分	高松市	小豆島	さぬき市
9月12日	食品配布会	86世帯		
9月26日	食品配布会	19世帯		10世帯
10月24日	相談会とパントリー	29世帯	18世帯	10世帯
10月25日	食品配布会	54世帯		

